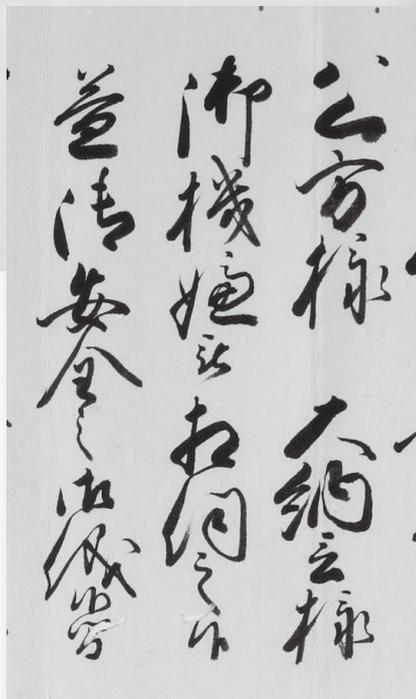
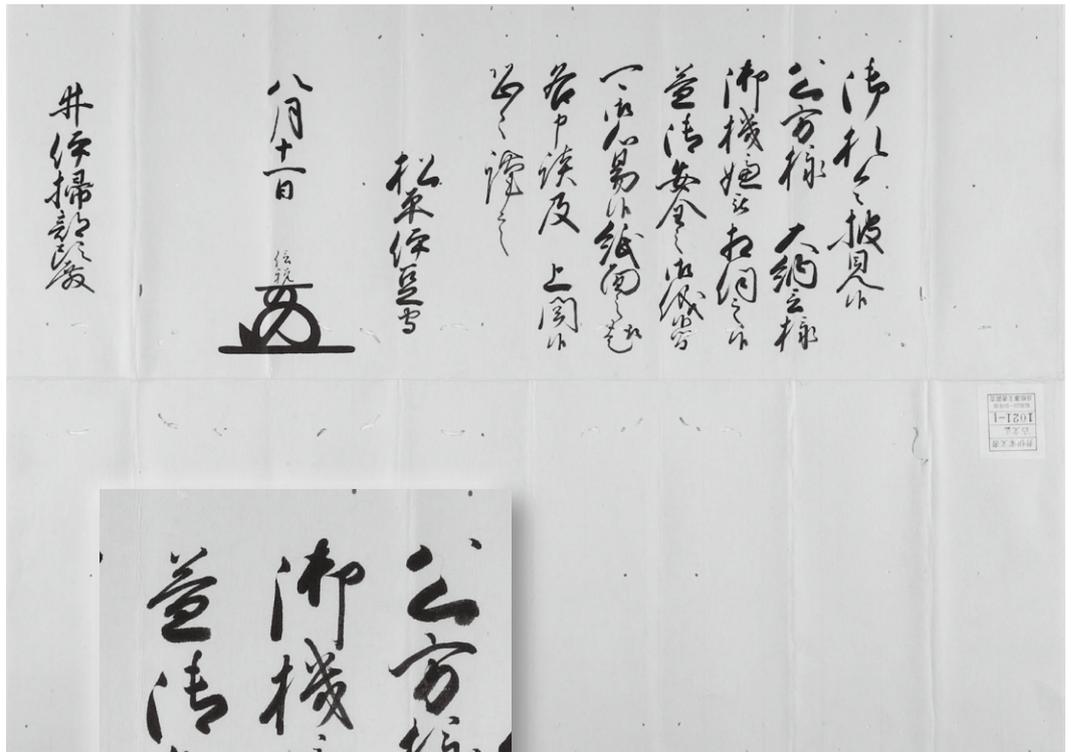


彦根城博物館だより

105

2014. 6. 1



資料紹介

江戸幕府老中奉書

当館蔵

江戸幕府の老中が諸大名に出した儀礼的な公文書に老中奉書があります。室町幕府以来の伝統を継承し、料紙を横半分に折って使います。当館には、江戸中・後期の約百二十年にわたり彦根藩主井伊家に宛てられた老中奉書が、まともって現存しています。

そのほとんどは、井伊家当主が彦根に帰国している時に受け取ったもので、先に井伊家から老中へ宛てた挨拶状に対する返事にあたります。例えば、井伊家当主は帰国中、毎月老中に文書で將軍の御機嫌を伺い、その返事が老中奉書でもたらされました。写真の老中奉書では、公方様（將軍徳川吉宗）・大納言様（世継ぎ徳川家重）の御機嫌は「益御安全」と伝えられています。

譜代大名筆頭の井伊家には、將軍を後見する役割があり、歴代当主は江戸滞在中、毎月定期的に老中に対面して將軍の様子を伺いました。帰国中は文書で同様の確認をしたといえます。他の大名も老中奉書を受け取っていますが、井伊家はその役割に伴い、特に多く交わしたようです。遠隔地間で頻繁に文書を交わすのは労力を要することですが、將軍との関係を永続させるためには必要な行為だったのです。

（野田浩子）

テーマ展

5/16 (金)  
6/17 (火)

展示室 1

雅な舞

—井伊家伝来の舞楽装束—

雅楽は、奈良時代に中国や朝鮮半島から伝来した楽舞と、日本古来の楽舞とを総合した、日本の伝統芸能です。宮廷や寺社で盛んに行われ、最盛期の平安時代には宮廷文化を華



舞楽面 陵王

やかに彩り、その一部は今に伝えられていま

井伊家伝来資料には、大名家には珍しく、舞楽器とともに舞楽装束のコレクションがあります。これまで未紹介だった、この舞楽を彩る装束の数々を、今回初めて公開します。

テーマ展

6/20 (金)  
7/22 (火)

展示室 1

湖東焼への憧憬

—湖東焼と近現代のやきもの—

江戸時代の後期に産声を上げ、数々の優品で知られる湖東焼は、短期間で廃窯を迎え、幻のやきものとも呼ばれています。

近現代には、湖東焼を慕って長浜湖東焼やまからずや焼などのやきものが製作されました。本展では、彦根藩の藩窯時代に製作された湖東焼の優品と共に、湖東焼への憧れを映し出す近現代のやきものを紹介します。



まからずや焼 色絵山水図水指



長浜湖東焼 染付花門文散茶碗

- ギャラリートーク●
- 日時 6月21日(土) 14時
- 講師 奥田 晶子(当館学芸員)

●● 常設展示 ●●

“ほんもの”との出会い

—彦根藩井伊家伝来の大名道具を中心に 80点あまりを展示—

展示室2～3、5～6



講座・教室

●彦根城博物館出張講座「あなたの街の歴史探訪」●

彦根市内のそれぞれの地域は、実に個性的な歴史に彩られています。本講座では、博物館学芸員が各公民館地区の歴史を取り上げ、その地域が歩んできた歴史の特徴をわかりやすく紹介します。今年度は5つの地域で開催します。

■日時・内容・会場

- 第1回 7月5日(土) 「河瀬地区の歴史」 (河瀬地区公民館) 定員60名
  - 第2回 7月19日(土) 「鳥居本地区の歴史」 (鳥居本地区公民館) 定員60名
  - 第3回 8月9日(土) 「中地区の歴史」 (中地区公民館) 定員60名
  - 第4回 9月6日(土) 「西地区の歴史」 (西地区公民館) 定員60名
  - 第5回 9月13日(土) 「高宮地区の歴史」 (高宮地域文化センター) 定員100名
- \*各回とも、午前10時から11時30分まで

■資料代 各回100円

■受講方法 当日受付(事前申し込み不要。先着順)

●キッズサマースクール●

夏休み期間中、狂言や茶道などの伝統文化や歴史に親しむ「キッズサマースクール」を開催します。バラエティに富んだプログラムを準備しましたので、ふるってご応募ください。

【内容・日程】

①狂言教室(小学5・6年生対象)

- 日程 7月25日(金)・26日(土)、8月3日(日)・4日(月)・8日(金)・10日(日)の14時30分～16時30分および、8月13日(水)の13時～16時30分(全7日間)
- 講師 和泉流狂言師 小笠原 匡氏 ほか
- 定員 12名(応募者多数の場合は抽選)

②博物館体験(小学1～6年生対象)

- 内容 博物館探検、茶の湯体験など
- 日程 8月5日(火)・6日(水)(全2日間)
- 1～3年生…13時30分～15時30分
- 4～6年生…10時～12時

■講師 当館学芸員

■定員 1～3年生…40名、4～6年生…20名(応募者多数の場合は抽選)

【会場】 当館(能舞台・講堂 他)

【対象】 原則として彦根市・米原市・愛荘町・豊郷町・甲良町・多賀町在住の小学生

【申込方法】 各小学校に配布する案内チラシに印刷した申込用紙に記入し、持参・郵送・ファックス通信のいずれか。

【申込期間】 6月16日(月)～7月6日(日) \*傷害保険料200円が必要です。



企画展  
7/25(金) ~ 8/26(火)

展示室1

## 彦根藩士の甲冑

— 赤備えの家臣団 —

彦根藩井伊家では、当主も家臣も朱色を基調とした甲冑を着用していました。さらに、槍や鞍、旗指物なども朱色で揃え、その勇壮な出で立ちは、「井伊の赤備え」として広く知られていました。

本展では、初公開の資料を含む、彦根藩士が所用した赤備えの武具を紹介します。多様なバリエーションの甲冑をはじめ、色鮮やかな赤備えの品々をご覧ください。



大旗・吹流図

### ●ギャラリートーク

■日時 7月26日(土) 14時  
■講師 古幡昇子(当館学芸員)



朱漆塗明糸糸威延延 枚胴具足



緋羅紗陣羽織

テーマ展  
8/29(金) ~ 9/30(火)

展示室1

## 武家の祝い

— 彦根藩の祝賀行事 —

江戸時代の人々は、正月、節句、冠婚葬祭など生活や人生の節目において、これを祝う、あるいは悼む行事を行っていました。彦根藩では、これらに加え、参勤交代での藩主の帰国と出発、歴代藩主の遠忌など、藩にとつての節目にも藩主・藩士・領民が参加する行事が催されており、これらの行事は、主従関係の確立や支配者側による権威の誇示などにつながっていました。

本展示では特に、彦根藩の武士達が参加して行われた祝賀行事に注目します。彦根城表御殿での藩士の藩主への御目見、藩主から藩士への祝儀品の下賜、鏡餅開きなどを紹介し、武家社会の祝賀行事について明らかにします。

### ●ギャラリートーク

■日時 8月30日(土) 14時  
■講師 青木俊郎(当館学芸員)



彦根城表御殿表向絵図



侍中由緒帳

## 能・狂言



### ●水無月狂言の集い

6月29日(日)  
18時30分開演(18時開場)  
大蔵流狂言 解説 茂山 逸平  
「雁礫」 茂山 七五三  
「止動方角」 茂山 正邦  
「腰折」 茂山 逸平  
■A席(正面席) 3千500円  
B席(脇正面席) 3千円  
全席指定  
チケット 発売中

### ●第48回 彦根城能

9月20日(土)  
15時30分開演(15時開場)  
観世流能「田村」替装束 浦田 保親  
大蔵流狂言「文山立」 茂山 正邦  
観世流能「杜若」恋之舞 片山 伸吾  
■A席(正面席) 5千500円  
B席(脇正面席) 5千円  
全席指定  
チケット 8月20日発売開始

## スケジュール

9月	8月	7月	6月
6日 「あなたの街の歴史探訪 西地区の歴史」	2日 古文書のみかた⑥	26日 「彦根藩士の甲冑」 ギャラリートーク	7日 古文書のみかた③
13日 「あなたの街の歴史探訪 高宮地区の歴史」	9日 「あなたの街の歴史探訪 中地区の歴史」	19日 「あなたの街の歴史探訪 鳥居本地区の歴史」	21日 「湖東焼への憧憬」 近現代のやきものー ギャラリートーク
20日 第48回彦根城能	30日 「武家の祝い」 ギャラリートーク	12日 古文書のみかた⑤	28日 古文書のみかた④
27日 古文書のみかた⑧		5日 「あなたの街の歴史探訪 河瀬地区の歴史」	29日 水無月狂言の集い
テーマ展 武家の祝い —彦根藩の祝賀行事— 8/29~9/30	企画展 彦根藩士の甲冑 —赤備えの家臣団— 7/25~8/26	テーマ展 湖東焼への憧憬 —湖東焼と近現代のやきもの— 6/20~7/22	テーマ展 雅な舞 —井伊家伝来の舞楽装束— ~6/17
8/26~28 展示替により一部休室	7/23・24 展示替により一部休室	6/17~19 展示替により一部休室	

\*「古文書のみかた」は事前申込制です。

## ◆工事による臨時休館のお知らせ

10月1日(水)から8か月程度  
\*工事の進捗状況により前後する場合があります。なお、開館日は確定した段階で広報ひこねやホームページなどでお知らせします。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願ひします。

# 金亀玉鶴



## まからずや焼

大正・昭和時代の彦根における製陶活動

大正時代、彦根でやきものが創始されました。一般に、まからずや焼と呼ばれるやきものです。その創始の経緯について、京都日出新聞の大正九年（一九二〇）二月五日の記事で次のように紹介されています。

彦根町大字二番町にて、同地第一等の陶器商まからず屋奥村松平氏は、一昨年陸軍特別大演習御奉行の際、各地より来彦せし観戦の諸紳士等より、地方産の湖東焼の注文多数ありたるも、（中略）近年に至り湖東焼を賞鑑するもの多く、為に湖東焼の煎茶茶碗五個が百円、二百円といふ暴騰せしも、買人はあるも売人はなき好況となりたるを以て、前記松平氏は、新湖東焼の再興を企画し、安居喜八氏所有の彦根公会堂脇、元木保男爵屋敷地を借受け、目下製造工場建築中なるが、既に焼釜は竣功せしを以て、工場竣工の上は湖東焼製造を開始する筈、而して立藩時代の湖東焼原料の土を以て製造することあれば、時代こそ違い、立藩時代と同様の陶器が産出せらるべしとのこと

ここには、湖東焼に対する需要が高まっていたため、彦根町大字二番町（現在の彦根市立花町）でまからず屋という陶器商を営んでいた奥村松平氏が、湖東焼を復興すべく、彦根城内（現在の開国記念館北西側の旧木俣家屋敷）に製陶工場を建設中であることが記されています。同年三月三十一日に工場が完成し、昭和時代の初め頃まで製陶が続けられることとなります。

記事にある通り、まからずや焼創始の発端となったのは、江戸時代に彦根で焼かれた湖東焼に対する需要の高まりでした。湖東焼は、文政十二年（一八一九）に民間で創始されたやきもので、その窯は後に彦根藩の召し上げとなり、井伊家十二代直亮、十三代直弼の下で高級品を産み出す名窯に成長しました。しかし安政七年（一八六〇）に直弼が落命すると、窯は縮小を余儀なくされ、文久二年（一八六二）に民間に払下げとなりました。藩窯廃止後、直弼顕彰の動きとも相まって、湖東焼の廃絶を悼む声は高まってきました。明治二年（一八六九）に円山湖東焼、同三年（一八七〇）に長浜湖東焼が産まれ、湖東焼の再興が試みられましたが、前者は二年、後者は三年で廃窯となりました。まからずや焼は、これらと共に、湖東焼の影響下で作されたやきものとして注目されます。

当館は、平成二十五年年度に、奥村氏のご子孫から、まからずや焼四十件の寄贈を受けました。受贈作品の調査の結果、これまで知られることの少なかったまからずや焼の作風の詳細が明らかになりました。

寄贈されたまからずや焼は全て「湖東」の銘が入っています。意匠には、草花や人物などの他に、彦根城や多賀大社の延命長寿の御利益をあらわす柿の葉などの地元ゆかりの模様がいられ、制作の技法は、染付、赤絵、色絵など多岐に渡っています。

写真2は、平成二十四年度に彦根市内の旧家より寄贈を受けた資料で、まからずや焼の商品に添えられていたと推察される葉です。ここには、「登録／商標／延命茶碗／長寿盃／八景盃」と大見出しで記されています。延命茶碗や長寿盃とは、写真1のような製品と考えられます。八景盃とは恐らく、近江八景の意匠の製品でしょう。これら地元ゆかりの意匠の作品が主力商品だったことが分かります。葉には、「湖東焼八彦根土産トシテ最好適品ナリ」とあり、彦根土産を意図

して商品の開発が行われていたこと、湖東焼という名で販売されていたことが分かります。

実は、このような彦根土産風の意匠は、江戸時代の湖東焼には確認できません。まからずや焼の商品開発では独自の意匠が創案され、湖東焼が忠実に再現されたわけではなかったと判断されます。

そもそも、江戸時代の湖東焼の製作には、佐和山北東山麓部の物生山の石などの地元産の材料の他に、全国から取り寄せた材料が用いられており、その製作技法や意匠もまた全国から招聘された職人の指導の下、伊万里焼や瀬戸焼、九谷焼、京焼などに倣ったものでした。そのようなやきものの再現には、人件費や材料費、設備費などにおいて莫大な費用が必要となり、民間の陶器商で賄える範囲を超えており、まからずや焼の製作において、湖東焼を忠実に再現することは、現実的には不可能だったと推察されます。奥村氏は、湖東焼に倣って「湖東」の銘を入れることでそのネームバリューをうまく取り入れつつ、廉価で親しみやすいやきものを産み出したと言えるでしょう。

まからずや焼を知ること、ルーツとなった湖東焼そのもの特徴を、より明確に理解できます。湖東焼の研究は、このような近現代の動向の解明も含めて進める必要があると言えるでしょう。

（奥田晶子）



写真1 まからずや焼

延命長寿文蓋物  
（武田雄子氏、奥村武彦氏、上田玲子氏寄贈）



写真2 彦根名産湖東焼陶器之葉  
（井戸庄三氏寄贈）



彦根城を世界遺産に

彦根城はユネスコの世界遺産暫定リストに登録されており、世界遺産をめざしています。

編集・発行

# 彦根城博物館

〒522-0061 滋賀県彦根市金亀町1番1号

TEL 0749(22)6100 FAX 0749(22)6520

http://www.city.hikone.shiga.jp/category/6-1-0-0-0.html

この印刷物は8000部作成し、印刷単価は6円です。